

※ ◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。 ◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名： 中央図書館

区分	事業名	事業概要	実施結果	評価	
				自己評価	外部評価
課題解決型図書館	◇全館共通評価項目	・市内18館のオンライン化によりどの館からでも貸出返却を可能にする。 ・オンライン館の資料回送を毎日の運行とする。	・6月に西川図書館、7月に白根図書館、10月に新津図書館、そして12月に豊栄図書館のシステムが統合し、市内18館のオンライン化がすべて終了した。 ・オンライン化以前の資料回送のための配本車は週1回であったが、オンライン化とともに毎日の運行とした。	・平成21年度に設定した作業計画通りにオンライン化を進めることができた。配本車の運行計画も年度当初に策定し、適切な配本車運行委託ができた。 ・全館の貸出冊数は前年に比べて微増にとどまったが、オンライン化による利便性が向上したため、来年度の貸出冊数の増加に期待したい。	○全館オンライン化と配本車の毎日運行実施を評価します。 ○オンライン化と貸出冊数の増加を結びつける工夫を期待します。 ○広報・宣伝(PR)に力を注いでください。 ○オンライン化による貸出・返却についていけない高齢者への配慮をお願いします。
	◆館の重点評価項目	・レファレンスの申込方法を増やし、レファレンス件数の拡大を図ることを目的に、今まで、来館が電話で受け付けていたレファレンスをEメールでも受付、回答を行なう。	・Eメールレファレンスの受付方法を検討し、12月の全館システム統合後、実施に向けてシステム環境を整備した。 ・メールフォームの整備は完了したが、実施は平成23年度からとなった。	・メールフォームの整備が12月の全館システム統合後となり、平成22年度中の運用はできなかった。そのため、レファレンス件数の拡大にはつながらなかった。 ・利用しやすく、また円滑に回答できるようメールフォームを整備した。 ・メールフォームからの受付ではないが、中央図書館や職員に対してEメールでのレファレンス依頼が6件あり、個別に回答を行った。	○とても良い試みで評価します。 ○より使いやすい入力フォームを目指して欲しい。 ○メール等が使えない高齢者への配慮をお願いします。
分権型図書館	◇全館共通評価項目	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を実施する。 ・地域資料の収集	・特別コレクション展示として、「會津ハ一のふるさと展」(4月7日～6月27日)を開催、「明治・大正・昭和の雑誌創刊号展」(7月8日～10月5日)では所蔵目録の図録も作成した。また「沼垂出身の歌手小唄勝太郎と詩人長沢佑展」(10月7日～1月4日)、「新潟市ゆかりの歌人展」(1月6日～4月5日)も開催した。 ・地域の方の協力のほか、新聞などから情報を得て、貴重な地域資料を積極的に収集した。	・地域の方からの協力を得て展示に取り組み、資料的に充実した展示を実施できた。展示を目的に来館する人が増加した。 ・展示を実施したことにより、貴重な地域資料を収集することができ、コレクションを充実させることができた。 ・図録は中央図書館が初めて作成したもので、関係者に配付することができた。	○地域資料の収集と展示は大変評価します。 ○収集する資料の充実と十分な検討をお願いします。 ○多くの地域の方やボランティアに関わっていただきたい。 ○歴史博物館との連携・すみ分けを考えて欲しい。 ○展示テーマを公募するなど、市民が参画できるとよいと思います。
	◆館の重点評価項目	・新潟市在住の良寛研究の第一人者だった、故谷川敏朗氏からの良寛関連の寄贈資料を整備し、「谷川・良寛文庫」のコーナーを新設する。 ・「谷川・良寛文庫」開設を記念して講演会を実施し、市民への周知と利用の拡大を図る。	・12月までに寄贈のあった故谷川敏朗氏の良寛関係資料を約1,500冊受け入れし、「谷川・良寛文庫」を新設した。 ・1月16日に開設記念講演会「良寛さんに学ぶ」(講師:全国良寛会会長 長谷川義明氏)を実施した。	・「谷川・良寛文庫」の新設により、中央図書館の地域資料がより豊かなものとなった。 ・講演会に79名の参加があり、文庫のPRに効果があった。また参加者のニーズに応えた、満足度の高い講演会にすることができた。 ・講演前後に文庫の見学者が多く、講演会だけで終わることなく、実際に文庫について知っていただくことができた。	○「谷川・良寛文庫」は貴重な資料が多く、大変評価します。 ○他の研究者の資料も収集して欲しい。 ○資料を活用した講座・講演の実施など、継続してもよいと思う。
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目	・H23年度からの実施に向けて、推進委員会で策定された基本方針に基づき、各区の実施計画を作成する。	・区ごとに関係課・機関や地域のボランティアと連携して実行委員会を各区3回開催し、実施計画を作成した。中央図書館は中央区・東区・西区・江南区の4区の事務局を担当した。	・各区の実情に合った実施計画を作成することができた。 ・ブックスタートを円滑に運営するための協働体制を作ることができた。	○ブックスタートに期待しています。実施計画が予定どおり作成できたことを評価します。 ○地区のボランティアとの連携を強化し、充実して欲しいと思います。
	◆館の重点評価項目	・学校への団体貸出図書の出貸・返却を搬送委託で行い、利用を促進する。	・H22年5月から市立小中高、特別支援学校190校への搬送を開始した。 ・学校団体貸出冊数は昨年度より 9%増となった。 H21年度 27,744冊 H22年度 30,305冊	・学校から強く要望されていた事業を開始することができ、学校との連携が図れた。利用した教師や学校司書からは便利であると好評である。 ・搬送対象校190校のうち98校の利用があった。 ・これまで団体貸出利用がなかった小・中学校34校のうち、16校からの利用もあり、利用促進に効果があった。	○学校への支援と連携が進み、大変評価します。 ○利用していない学校への、一層の啓発を望みます。 ○学校が必要とする資料(本)を収集して欲しい。 ○学校への貸出冊数や期間について、希望に応えるなど、より充実させて欲しい。
パートナーシップ型図書館	◇全館共通評価項目	・市民との協働をいっそう推進するためボランティア・教育機関や民間団体と連携して事業を行う。	・絵本の読み聞かせボランティア「きいちごの会」をはじめ、「県社会教育協会」「こどものとも社」等さまざまな団体と協働した共催事業を32回実施した。	・平成21年度は27回であったため、若干ではあるが上回る実績であった。毎年継続して共催している団体のほか、新規で共催したいと希望してくる団体もある。図書館との共催にふさわしい事業を開拓し、図書館資料の活用を進め、図書館側から企画や助言等を行うなど、より協働を推進していきたい。	○多くの団体と事業共催を実施していることを、評価します ○図書館として情報を提供するなど、ニーズに応じて欲しい。 ○本について語り合う機会があるといいと思います。
	◆館の重点評価項目	・対面朗読等協力者の対面朗読技術の習得により、ハンディキャップサービスの利用拡大と質の向上を図るため、前年度の養成講座に続きステップアップ講座を実施し、対面朗読等協力者を養成する。	・6月27日、7月11・25日の3回にわたり、対面朗読等協力者を対象とした「対面朗読等協力者養成講座 ステップアップ編」(講師 齋藤禮子氏 日本図書館協会音訳講師)を実施した。 ・平成21年度に実施した「対面朗読等協力者養成講座」の受講者で、対面朗読等協力者に未登録だった4人の方にも登録していただき、登録数が34人になった。	・ステップアップ講座として、前年度の養成講座基礎編参加者17人だけでなく、現在対面朗読活動を行っている対面朗読等協力者14人にも参加してもらうことができ、技術の向上につながることができた。 ・講座参加者には、個人の技術レベルにより満足度に違いがあるようだが、アンケート結果では概ね満足またはいい印象を持っていた。 ・平成22年度の対面朗読の回数は43回で、前年度(44回)とほぼ同数だったが、録音図書作製の依頼は6件から13件に倍増した。 ・対面朗読等協力者が増え、対面朗読を希望する方の要望に応えることが容易になった。	○高く評価できる活動です。 ○今後も積極的に取り組んで、多くの協力者を養成して欲しい。